



岡田寛の
香川新音楽事情

372

第9「合唱」に挑戦



ベートーベンの「第9」に挑むかがわジュニア・ニューフィルハーモニック・オーケストラ

定期演奏会でベートーベンの交響曲に取り組んでいるかがわジュニア・ニューフィルハーモニック・オーケストラ(KJO)が今年、ついに第9番「合唱」に挑戦する。県の文化施策の中で、KJOの育成は他県に例の少ないユニークな事業で、胸を張ってよい。ただ、アマチュアオーケストラの高松交響楽団(佐竹一郎理事長)を中心とした各団体の協力があったこそ、今があることを忘れてはならない。

何と言っても、KJOの音楽監督を務める福崎至佐子(写真)ははずせない。四半世紀前に高松短大教授として帰

29日 ジュニア・ニューフィル演奏会

郷。高響のコンサートマスターとして、低迷していた弦楽器奏者の演奏レベルを飛躍的に高め、△高響中興の祖▽と称される。そんな福崎の指導力を知らぬ者はおらず、15年以上にわたってKJOに注ぐ情熱には頭が下がる。

さて、注目の第9回定期演奏会は29日午後2時から、高松市のアルファあなぶきホール・大ホールで開かれる。ジュニアの「第9」は珍しいだろう。かねてから交流を重ねている台湾の国立武陵高級中学管弦楽団の十数人に加え、総勢約100人のオーケストラがステージに並ぶ。

23年前から「第9」の公演を毎年続けている香川第九合唱団、オペラコーラスを目的に5年前に結成された高松マスタースコーラスなどが合唱で共演。佐竹由美(ソプラノ)、永井和子(アルト)、行天祥晃(テノール)、久保和範(バリトン)と、いずれも全国で活躍する実力派が独唱でそろう。

永井以外は県出身者だし、永井も県内で声楽の公開レッスンをひらくなどおなじみの顔だ。快拳を支える人たちの多くが地元出身かゆかりなもつれしい。

指揮者としてすべてを統率するのは、長くKJOの育成にもかかわっている平井秀明。最強の布陣といっても過言ではなく、このキャストなら、今回の仕上がりには何の懸念もなく、期待は高まるばかりだ。

(文中敬称略)

